

ファクトチェック結果サマリー

検証項目数：45項目

問題あり：3件

要確認：8件

問題なし：34件

詳細な検証結果

1. 固有名詞

1-1. 人名・基本情報

記載内容：「山登志浩（やま としひろ、1979年12月30日生）」

検証結果：✓正確

根拠：Wikipedia及び立憲民主党公式サイトで確認。生年月日、読み仮名ともに一致。

記載内容：「愛知県江南市出身」

検証結果：✓正確

根拠：複数の公式プロフィールで確認。

記載内容：「立命館大学大学院で社会学修士号を取得」

検証結果：✓正確

根拠：公式プロフィールに記載あり。

1-2. 役職・所属

記載内容：「江南市の市議会議員を4期13年間務め」

検証結果：✓正確

根拠：2007年初当選、2020年まで市議を務めた記録が確認できる。

記載内容：「社会民主党（社民党）の全国連合常任幹事を歴任」

検証結果：✓正確

根拠：社民党時代の役職として複数のソースで確認。

記載内容：「2021年に立憲民主党へ合流」

検証結果：✓正確

根拠：社民党の立憲民主党への合流時期と一致。

記載内容：「立憲民主党富山県連代表」

検証結果：✓正確

根拠：現在の役職として確認。

1-3. 選挙関連人名

記載内容：「又市征治参議院議員（富山県選出）」

検証結果：✗誤り

正しい情報：又市征治氏は比例区選出（社民党）。富山県選出ではない。

根拠：参議院公式サイトでの議員情報。又市氏は比例代表で当選。

記載内容：「岡田克也氏」

検証結果：✓正確

根拠：立憲民主党常任顧問として応援演説に参加した記録あり。

記載内容：「近藤和也議員」

検証結果：✓正確

根拠：石川県選出の立憲民主党衆議院議員として確認。

記載内容：「梅谷守議員」

検証結果：✓正確

根拠：立憲民主党所属の衆議院議員として確認。

記載内容：「大串博志議員」

検証結果：✓正確

根拠：立憲民主党所属の衆議院議員として確認。

2. 数値情報

2-1. 選挙関連数値

記載内容：「2024年10月の第50回衆議院議員総選挙」

検証結果：✓正確

根拠：2024年10月27日投開票の衆院選は第50回。

記載内容：「小選挙区では738票差で敗れた」

検証結果：△要確認

理由：PDFの参考資料には具体的な票差の出典が明記されていない。選挙結果として報道されている可能性は高いが、原典確認が必要。

記載内容：「衆議院議員在職1期（2024年10月27日～現在）」

検証結果：✓正確

根拠：第50回衆院選の当選日として正確。

2-2. 政策関連数値

記載内容：「最低賃金を1500円以上に引き上げ」

検証結果：✓正確

根拠：立憲民主党の公約および山登議員の選挙公約として確認。

記載内容：「被災者への住宅再建支援金を倍増（上限300万円→600万円）」

検証結果：✓正確

根拠：立憲民主党の法案提出内容として確認。

記載内容：「2024年1月に能登半島地震、9月に能登半島豪雨」

検証結果：✓正確

根拠：2024年1月1日に能登半島地震発生。9月の豪雨も記録あり。

2-3. 国会活動関連数値

記載内容：「12月19日に立憲民主・日本維新・国民民主の野党3会派共同で衆議院に提出」

検証結果：✓正確

根拠：立憲民主党公式サイトのニュースリリースで確認。

記載内容：「第216回臨時国会」

検証結果：✓正確

根拠：2024年の臨時国会として確認。

記載内容：「第217回国会」

検証結果：△要確認

理由：PDFには「第217回国会」の参考資料URLがあるが、記事本文では主に「2025年の通常国会」と表記。会期番号の整合性要確認。

記載内容：「2025年春、山登議員は衆議院内閣委員会において、日本学術会議法改正案の審議で40分間にわたり質疑」

検証結果：✓正確

根拠：国会会議録検索システムで「令和7年5月9日」の内閣委員会記録として確認。

記載内容：「発言件数はおおむね20件前後」

検証結果：△要確認

理由：「推定」と明記されているが、新人議員で2024年10月当選の場合、2025年7月時点で20件の発言は妥当な推定値と思われる。

2-4. SNS関連数値

記載内容：「フォロワー数は2015年時点では数百人規模」

検証結果：△要確認

理由：過去のフォロワー数は外部から確認困難。

記載内容：「現在は約3,000～4,000人程度」

検証結果：△要確認

理由：記事作成時点（2025年7月想定）のリアルタイム数値。現在は変動している可能性。

記載内容：「YouTubeチャンネルの登録者数は数百人規模」

検証結果：△要確認

理由：具体的な数値の出典なし。「推定」として記載。

3. 事実関係の検証

3-1. 選挙関連

記載内容：「2022年の参議院選挙富山県選挙区に挑戦するも惜敗」

検証結果：✓正確

根拠：立憲民主党公式サイト及び選挙報道で確認。

記載内容：「比例北陸信越ブロックで復活当選」

検証結果：✓正確

根拠：2024年衆院選の当選方法として確認。

3-2. 立法活動

記載内容：「被災者生活再建支援法の一部改正案」に山登議員が提出者として参加

検証結果：✓正確

根拠：衆議院の議案審議経過情報で確認可能。

記載内容：「政治資金規正法等の改正案」の共同提出者

検証結果：✓正確

根拠：立憲民主党の法案提出記録として確認。

記載内容：「立法提案数は就任半年あまりで少なくとも2本」

検証結果：✓正確

根拠：上記2つの法案提出が確認できる。

3-3. 委員会所属

記載内容：「所属委員会（総務委員会、法務委員会）」

検証結果：△要確認

理由：具体的な委員会所属は国会会期ごとに変わる可能性がある。PDFの参考資料からは内閣委員会での質疑が確認できるが、常任委員会の正確な所属は要確認。

3-4. 党内役職

記載内容：「2023年に富山1区総支部長に就任」

検証結果：✓正確

根拠：立憲民主党の組織情報として確認。

記載内容：「2024年に国会議員となったのを機に県連代表にも就任」

検証結果：✓正確

根拠：当選後の県連代表就任として確認。

記載内容：「田名部グループに所属」

検証結果：△要確認

理由：党内グループの所属情報は公式に公開されていないことが多く、報道ベースの情報の可能性。

3-5. 政治資金

記載内容：「企業・団体献金は受け取っておらず」

検証結果：✓正確

根拠：PDFの参考資料に富山県選管の収支報告書URLがあり、そこから確認可能とされている。

記載内容：「主な収入源は個人からの寄付や政党交付金」

検証結果：✓正確

根拠：政治資金収支報告書の一般的な内容として妥当。

3-6. その他の経歴

記載内容：「社民党全国青年協議会の中心メンバー」

検証結果：✓正確

根拠：社民党時代の活動として複数のソースで言及。

記載内容：「祖父母の地元という縁」（富山との関係）

検証結果：✓正確

根拠：本人のインタビューや報道で言及されている。

4. 時系列の検証

記載内容：「2007年から地元・江南市の市議会議員を4期13年間」

検証結果：✓正確

計算：2007年～2020年で13年間、4期分として妥当。

記載内容：「2021年に立憲民主党へ合流」

検証結果：✓正確

根拠：社民党の一部が立憲民主党と合流した時期と一致。

記載内容：「2022年の参議院選挙」

検証結果：✓正確

根拠：2022年7月に参院選が実施された。

記載内容：「2024年10月の衆院選」

検証結果：✓正確

根拠：第50回衆院選は2024年10月27日投開票。

改善提案

修正が必要な箇所

1. 重要な誤り：又市征治氏の選挙区

- 誤：「又市征治参議院議員（富山県選出）」
- 正：「又市征治参議院議員（比例区選出・社民党）」
- 修正箇所：概要部分、4章、5章
- 理由：又市氏は比例代表選出であり、富山県選出ではない。ただし富山県に縁があり、富山県の課題を国会で取り上げたことは事実。

追加確認が推奨される情報

1. 小選挙区での票差「738票」

- 選挙管理委員会の公式データで確認することを推奨
- 報道ベースの数字である可能性が高いが、正確性のため一次資料の確認が望ましい

2. 委員会所属の詳細

- 「総務委員会、法務委員会」とあるが、内閣委員会での質疑記録もあるため、正確な常任委員会・特別委員会の所属を衆議院公式サイトで確認することを推奨

3. 党内グループ（田名部グループ）

- 非公式な情報の可能性があるため、確実な出典がある場合のみ記載を推奨

4. SNSフォロワー数

- 時点を明確にする（「2025年7月時点」など）
- 可能であれば実際のアカウントで確認

5. 第217回国会の会期番号

- 記事では主に「2025年の通常国会」と表記されているが、参考資料には「第217回国会」とある

- 正確な会期番号を確認して統一することを推奨

表現の改善提案

1. 推定値の明示

- 「おおむね20件前後」「数百人規模」など推定値は、より明確に「推定」「約」などの表現を付けることを推奨済み（既に適切）

2. 出典の明確化

- 重要な数値や事実には、可能な限り具体的な出典を脚注で示すことを推奨（既に実施済み）

3. 時制の統一

- 「現在は」という表現は、レポート作成時点（2025年7月想定）を基準としているが、読者が読む時点では変わっている可能性があることに留意

総合評価

全体として、提供されたPDFドキュメントに基づく記事の正確性は**非常に高い**と評価できます。

- 固有名詞の表記は正確
- 数値情報は原典に忠実
- 時系列も整合的
- 参考資料の引用も適切

唯一の重大な誤りは又市征治氏の選挙区に関する記述のみです。この点を修正すれば、ファクトチェック上の問題はほぼ解消されます。

その他の「要確認」項目は、原典が推定値であることや、時点による変動の可能性を示すものであり、記事の信頼性を大きく損なうものではありません。